



きたごう みちひろ  
北郷 伯弘 議員



広野町こども園

## 幼児教育

### 町の考え方は

町長／言葉の教育が最重要

#### 町長

幼児教育は、小学校以降における生きる力の基礎や生涯にわたる人間形成の基礎を培う上で重要な役割を担っています。

「心」を育てる情操教育については、最も大切なことは言葉であり、脳科学的に見ても読書を通じて語彙を蓄えることは大変重要であるとされていることから、絵本と映像により幼児の徳性、知性、感性を育む「言葉の教育」事業について、全教職員が研修に取り組み本年度から事業に着手しました。

言葉は、知的活動の基盤であり、コミュニケーションの基盤でもあり、「言葉の教育」事業をこども園での教育にとどまることなく、こども園と小学校教育のつながりを意識した接続期の教育課程と捉え、小学校入学後の継続した事業展開に取り組んでいきます。

#### 北郷

幼児期は、基本的な生活習慣や意欲、態度など一生に渡る人間形成の基礎を培うとても重要な時期です。

子どもというのは遊びや日常生活で毎日、様々な体験をしており、その体験を通して知的かつ情緒的に発達していきます。

また、人間として一生をより良く豊かに生きていくための基礎を身につけます。

開園から2年目となる広野こども園での幼児教育の展望について、第二次広野町教育ビジョンの中の「園、小、中が連携したつなぐ教育の推進」と合わせ、町としての考えを伺います。



楽しそうな子どもたち

## コロナ対策

### 企業の支援の今後は

町長／更なる支援拡充を検討

#### 門馬

①新型コロナウイルスの感染拡大がもたらす影響が長引く中で、町内中小企業者等の経営基盤の安定化を支援する上での町としての考えを伺います。

#### 町長

①「広野町新型コロナウイルス対策中小企業者等支援事業補助金交付要綱」を策定し支援事業に着手しました。7月からは、補助対象業種について、当初の飲食業及び宿泊業からその他の業種の実態を踏まえ、企業種に拡大し対象期間を当初の2月に遡及して、中小企業者等を支援してきました。

国・県の中小企業者等に対する支援策を注視しながら、地域経済の動向を確認し中小企業者等に対する更なる支援の拡充策について検討します。

### 協定締結の成果は

町長／個人別の回復訓練を実施

## 福祉サービス

#### 門馬

①広野町地域包括ケアシステムの構築を目的に、町、医療法人社団、養高会、馬場医院、広野町社会福祉協議会の4機関による協定を締結したと思えますが、今年度から具体的にごのような体制を整えたのか伺います。

②デイサービスセンター「広桜荘」における新型コロナウイルス感染症の取り組みについて伺います。

③全国的に室内での熱中症も発生しています。高齢者の多い当町において、熱中症対策の取り組みを伺います。

#### 町長

①社会福祉協議会の体制を新たに構築し、デイサービスセンターでは利用者の個別機能訓練計画を作成し、個々の身体状況に即したきめ細かい機能回復訓練を実施しています。福祉サービスの質の向上を目指し、社会福祉協議会においてデイサービスセンター通所事業及び社会福祉協議会訪問介護事業の利用者を対象としたアンケート調査を実施し、当面する課題を捉え、震災から10年を経過しようとする中、高齢者福祉サービスを充実すべく体制を展望していきます。

②職員には自宅及び出勤時の検温を徹底するとともに、執務室の机にビニール製の衝立を設置するなどの感染拡

大防止対策と、利用者に対し、検温と体調確認を行い、入浴や食事の時間を除き、マスク着用を徹底し、食事の際も利用者が使用するテーブルにビニール製の衝立を設置しています。③防災行政無線を利用し毎週土曜日、日曜日、毎日午前10時にコロナ対策も含めた熱中症予防のお知らせ、広報ひろのへの熱中症予防行動の掲載、8月21日の行政区回覧における熱中症予防チラシの全戸配布、社会福祉協議会生活支援相談員による訪問の際に熱中症予防チラシの配布と呼びかけ、ひとり暮らし高齢者等が利用する緊急通報装置を活用し熱中症予防の呼びかけを実施しました。



もんま まりえ  
門馬 まりえ 議員